

# 若者が拓く地域の未来

## ～ 里山資本主義のススメ

2014年9月21日

株式会社 日本総合研究所 調査部 主席研究員  
株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

もたに  
藻谷浩介      [kosuke@motani.com](mailto:kosuke@motani.com)



# 地域活性化って何ですか？

- ？ 交通が便利になることだ。
- ？ 工場誘致が進むことだ。
- ？ もっと好景気になることだ。
- ？ 人口が減らなくなることだ。

交通が便利になって、工場誘致が進んで、好景気になれば、人口は減らなくなると、あなたは今なお本気で信じていますか？

# 地域活性化って何ですか？

? これ以上交通を便利にするよりも

? **これ以上工場を増やそうとするよりも**

? 好景気・不景気と騒ぐのでもなく

◎ **人口が減らなくなること。**

◎ 若者が戻ってきて、子供が生まれ続けること。

◎ **誇りを持って地域を残すこと。**

# 京都市で今起きていること

(人口流出入を見込んだ、国立社会保障・人口問題研究所の予測)

市内在住者(外国人含む)：2010年→20年  $\Delta 2.1$ 万人

減少というよりはほぼ横ばい 

100年後には現役世代がゼロになる！というペースの、急速な減少

0-14歳人口の増減：

	↓絶対数	↓増減	
2000年 17.2万人→2010年	15.3万人	$\Delta 1.9$ 万人	$\Delta 11\%$

15-64歳人口の増減：

	↓絶対数	↓増減	
2000年 96.2万人→2010年	万人	万人	

65歳以上の人口：

	↓絶対数	↓増減	
2000年 34.0万人→2010年	万人	万人	

↑その中の75歳以上の人口：

	↓絶対数	↓増減	
2000年 16.2万人→2010年	万人	万人	

# 首都圏一都三県で今起きていること<sup>5</sup>

(人口流出入を見込んだ、国立社会保障・人口問題研究所の予測)

首都圏内在住者(外国人含む)：2010年→20年 +7.4万人

増加というよりはほぼ横ばい ↑

150年少々で現役世代がゼロ！になるという、不意打ちのような減少

0-14歳人口の増減：

2010年	4.4百万人	→	2020年	4.0百万人	↓絶対数	△39万人	↓増減	△9%
-------	--------	---	-------	--------	------	-------	-----	-----

15-64歳人口の増減：

2010年	23.9百万人	→	2020年	百万人	↓絶対数	万人	↓増減	
-------	---------	---	-------	-----	------	----	-----	--

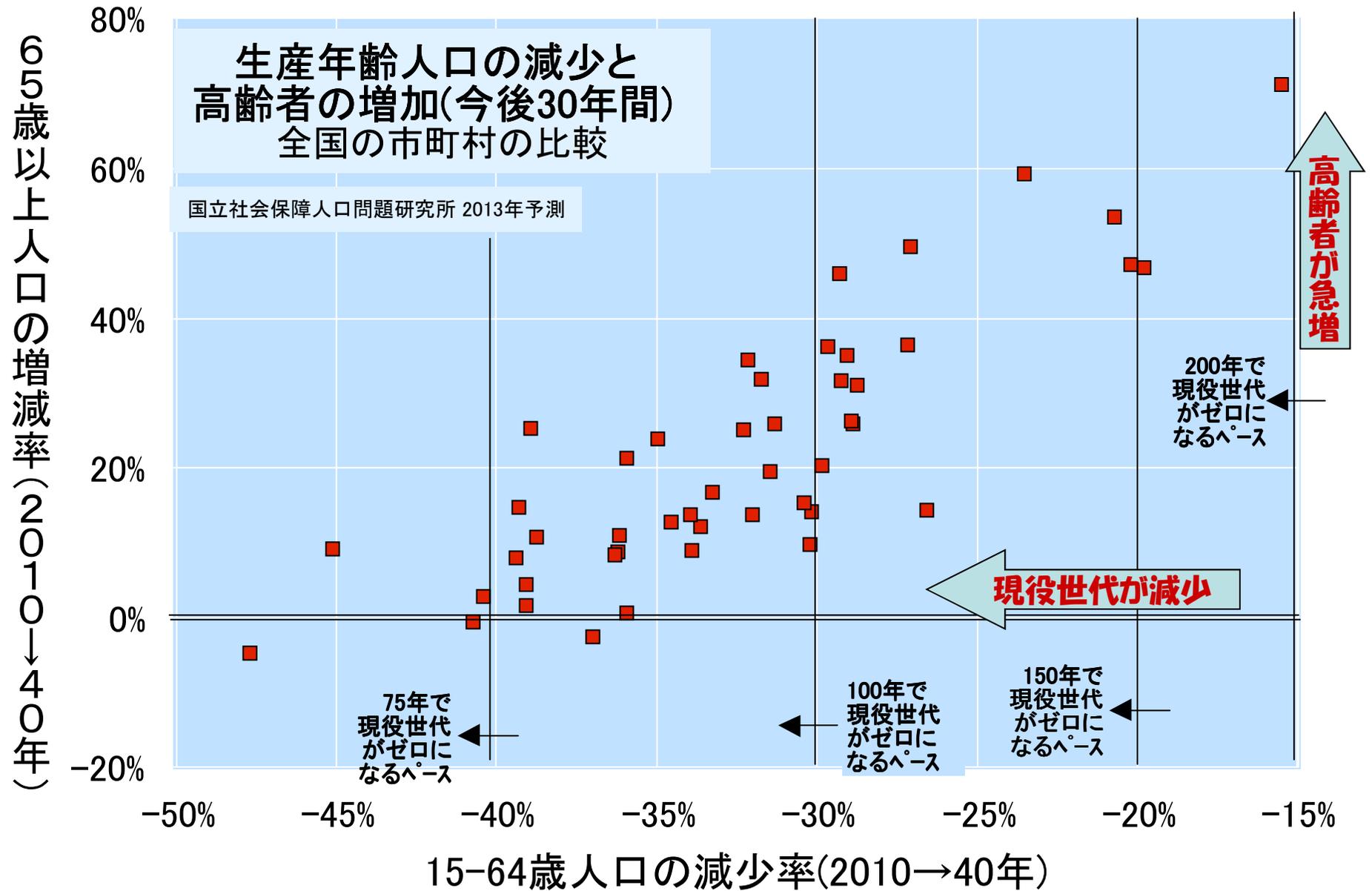
65歳以上の人口：

2010年	7.3百万人	→	2020年	百万人	↓絶対数	万人	↓増減	
-------	--------	---	-------	-----	------	----	-----	--

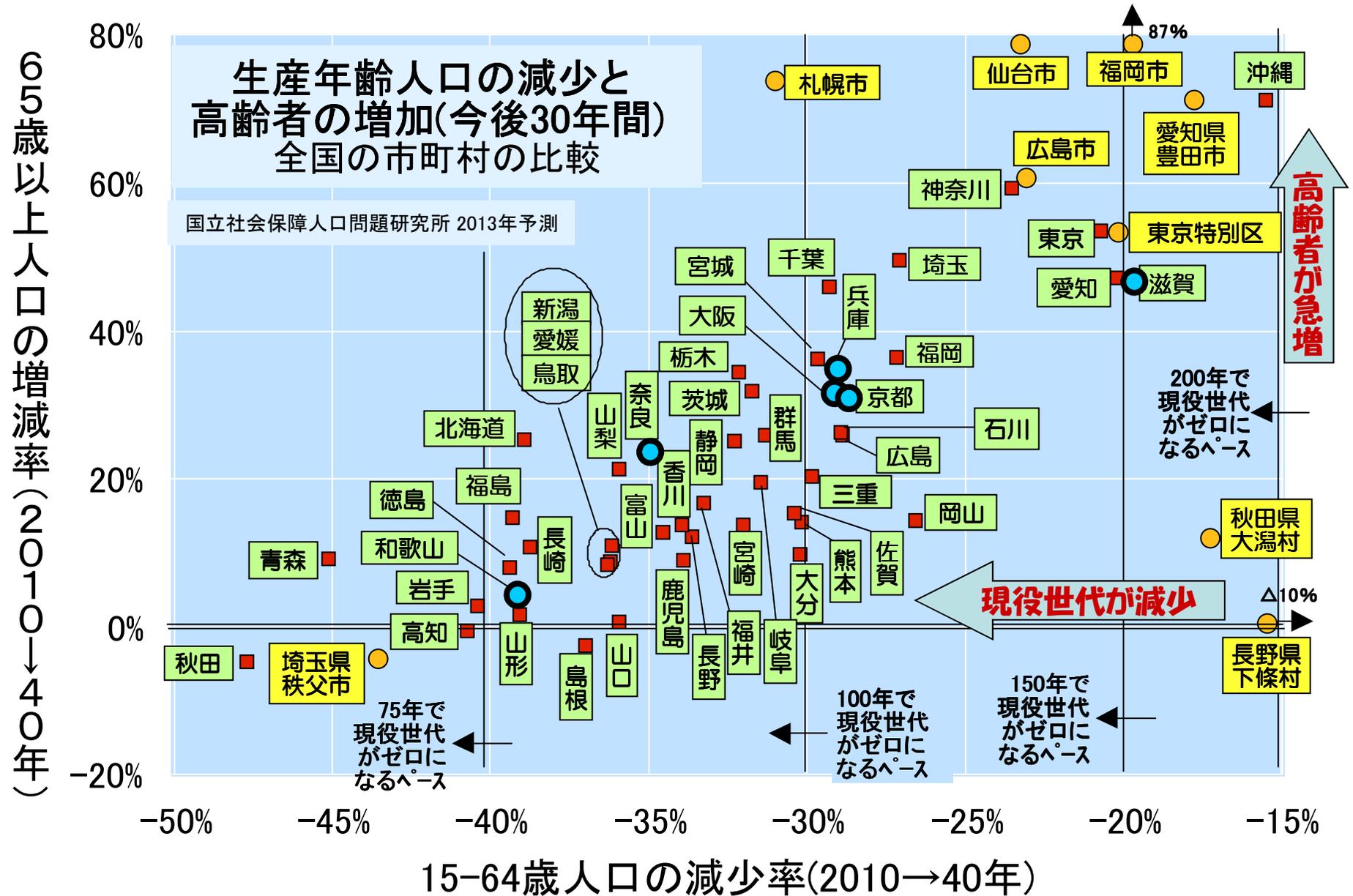
↑その中の75歳以上の人口：

2010年	3.2百万人	→	2020年	百万人	↓絶対数	万人	↓増減	
-------	--------	---	-------	-----	------	----	-----	--

# 現役世代の減少と高齢者の増加<sup>6</sup>



# 現役世代の減少と高齢者の増加<sup>7</sup>

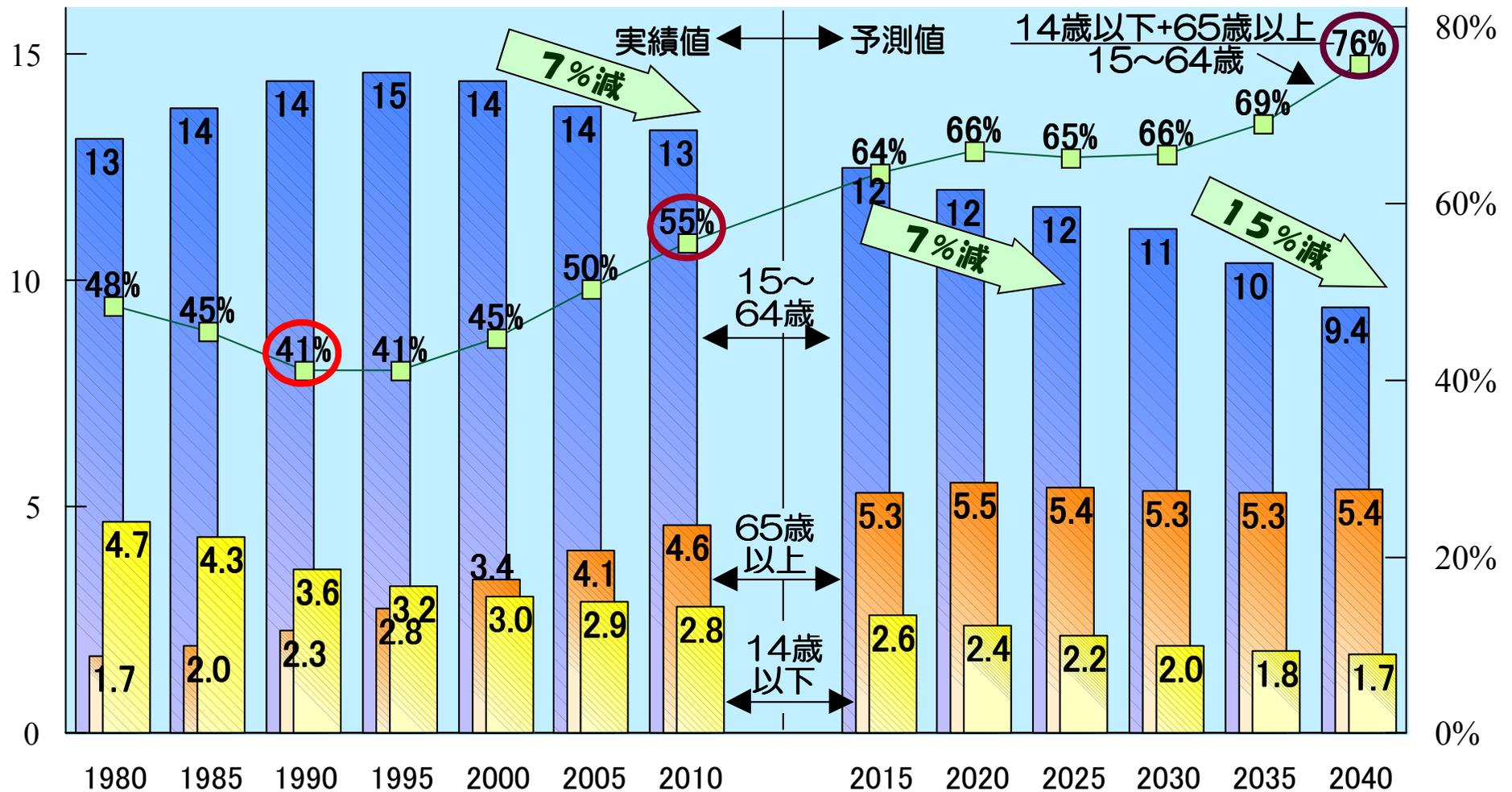


# 現役が減り続ける関西圏

## 年齢階層別にみた関西二府四県の在住者数（1980-2040）

百万人

実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值)  
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値



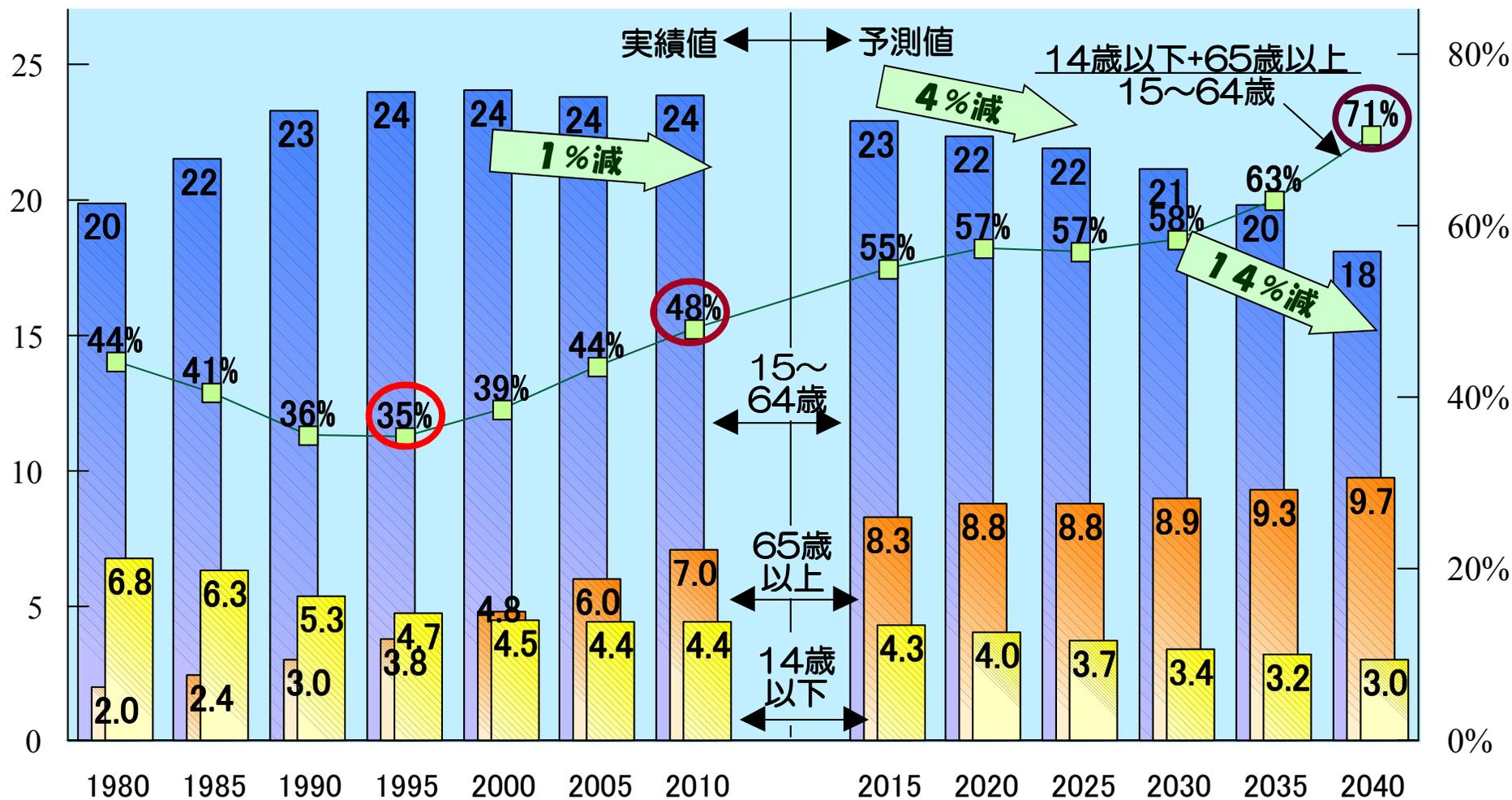
# 高齢者が増え現役は減る首都圏<sup>9</sup>

## 年齢階層別に見た首都圏一都三県の在住者数（1980-2040）

百万人

実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正値)  
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む



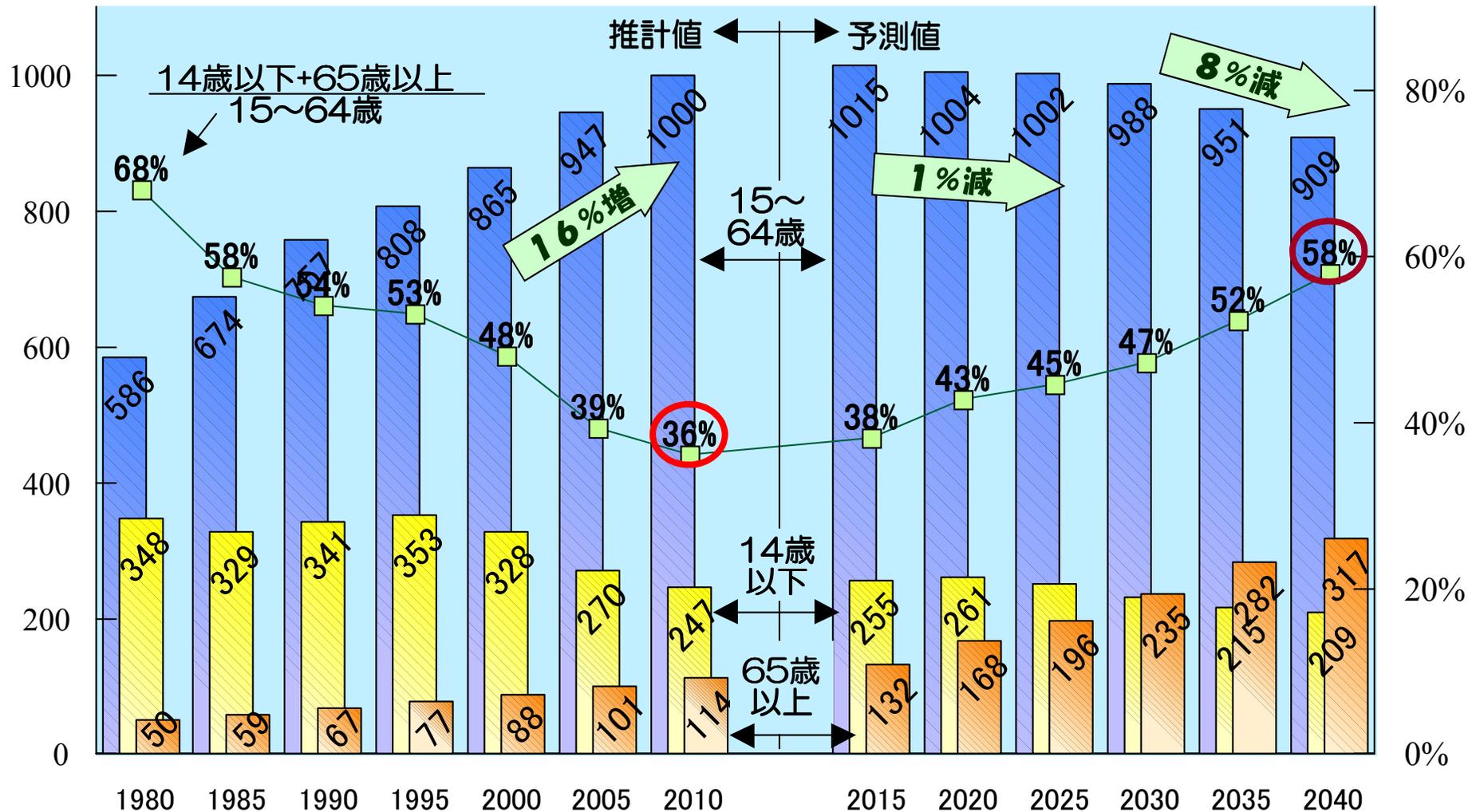
# 高齢者が増え現役は減る中国

## 年齢階層別にみた中国の在住者数 (1980-2040)

百万人

数字には居住外国人を含む

資料: 国際連合人口部 2012年世界人口予測

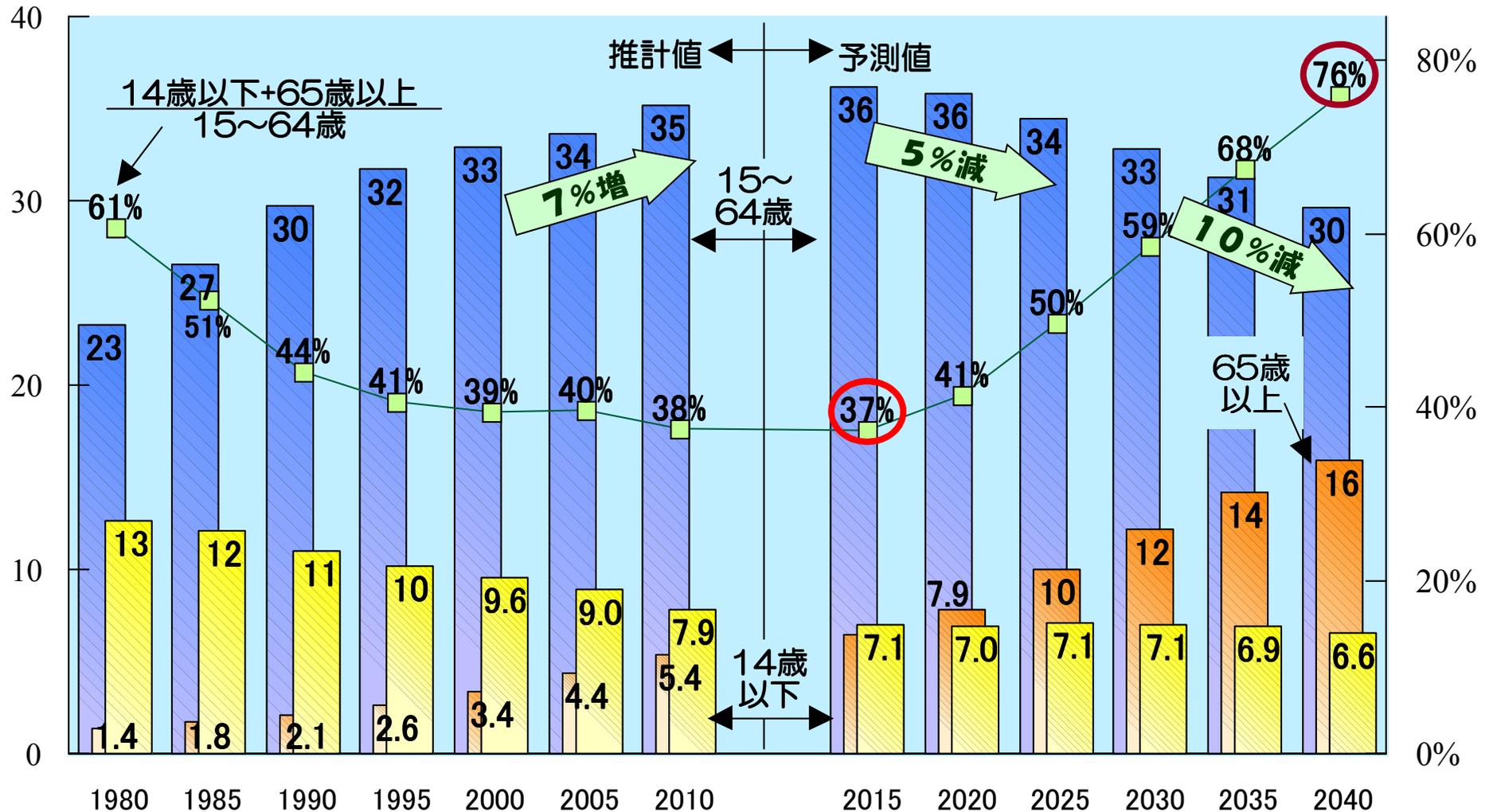


# 高齢者が増え現役は減る韓国

## 年齢階層別にみた韓国の在住者数（1980-2040）

百万人 **数字には居住外国人を含む**

資料：国際連合人口部 2012年世界人口予測



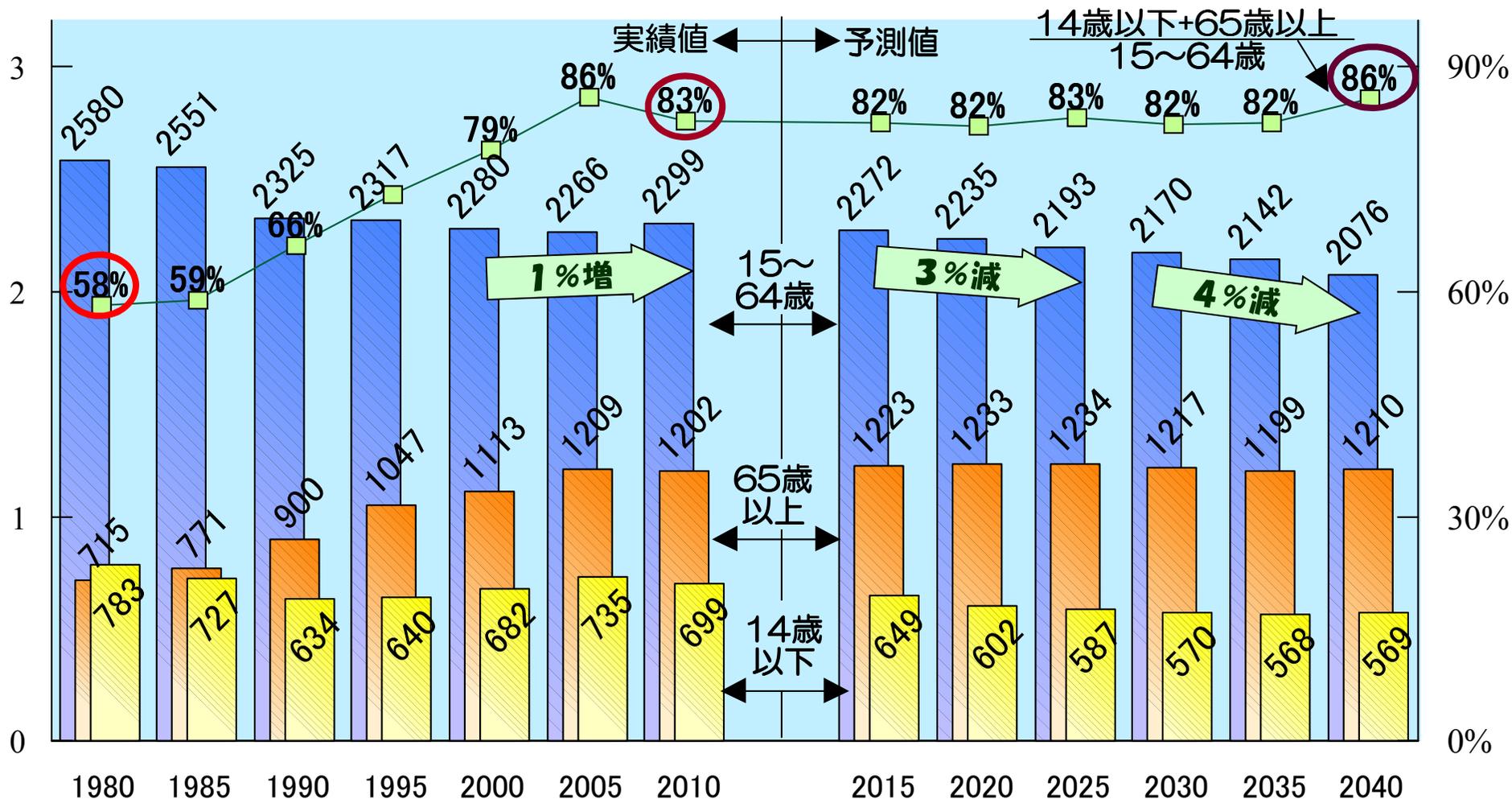
# 安定を実現した長野県下條村

## 年齢階層別にみた長野県下條村の在住者数 (1980-2040)

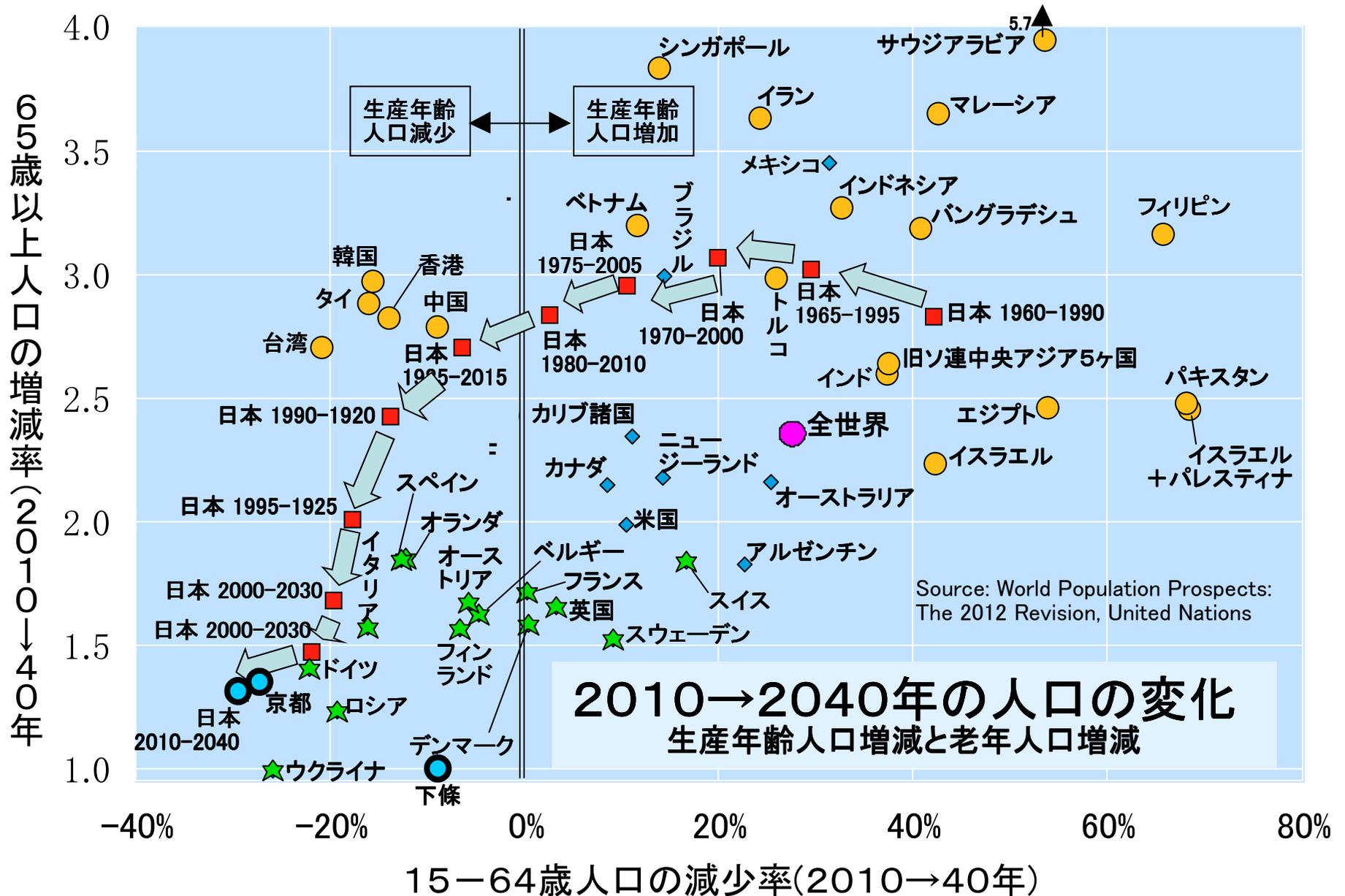
千人

実績: 国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值)  
 予測: 国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む



# 同じグラフで世界を比較すると...



# 止められないこと・できること <sup>14</sup>

## × 止められないこと

- 今の住民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと
- (多くの)若者が地域外に就職して出て行くこと

## △ 止められること

- 出生率の低下は、やり方次第で止められる
- 当地で育ち就職時に出て行った若者が、出て行ったきりとなることも、工夫次第で止められる

## ○ むしろ前向きにできること

- 子育てしながら働く若い世代を呼び込める
- 無病息災で天寿を全うする高齢者を増やせる
- 来訪・滞在・短期定住する外来者を増やせる

# 止められないこと・できること <sup>15</sup>

## × 止められないこと

- 今の住民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと
- (多くの)若者が地域外に就職して出て行くこと

## △ 止められること

- 出生率の低下はやい方次第で止められる
- 当地で育ち就職した若者が出て行ったとき

**「里山資本主義」こそ  
これらを進めるための  
カギとなる発想**

## ○ むしろ前

- 子育て
- 無病息
- 来訪・滞在・短期滞在

# “里山資本主義” とは何か？

16

「マネー資本主義」の欠陥を補うサブシステム (保険)  
資源+お金+善意を回して、地域経済を元気にする

！ 里山や離島に眠る、金銭換算すると無価値の資源

①耕作放棄地、②立木、③半端モ/農産品、④退職者、⑤野獣...

！ でもそれを資本として活かすと、水/食料/燃料  
+αを自給+物々交換できる (←農山漁村では常識ですが...)

① 食糧+エネルギーの自給率向上で、外に出て行くお金が減る  
② 物々交換で絆が強まる ③ 自給+絆で、天災に強い地域となる

！ 無価値の資源を資本として活かすと、工夫次第で外から  
もっとお金を稼げ、そのお金を地域内で回せる

④ 6次産業がしみじみと外貨を稼ぐ ⑤ 地消地産(=地元民と観光客が、地元産を消費すること)で、その外貨が地域内で回る  
⑥ 地元産自然エネルギーを都会に売る ⑦ 若者の雇用が増える

# マネー資本主義と里山資本主義<sup>7</sup>

## マネー資本主義

## 里山資本主義

動機

自分が、いま、一番になる

社会が滅びずに続いていく

目標

お金儲けの一番を目指して  
際限なく稼ぎ、貯め込む

代わりのない中継者になる  
= 稼いでは回しバトンをつなぐ

戦略

粗暴バージョン：  
他者/他集団から奪い取る

素朴バージョン：  
何でも自給自足する

知能バージョン：  
未来/次世代から搾取する  
← 簿外資産を浪費して蓄財する  
(地下資源、水、土壌、大気、子供、絆...)  
← 借金や汚染物質を後世に残す

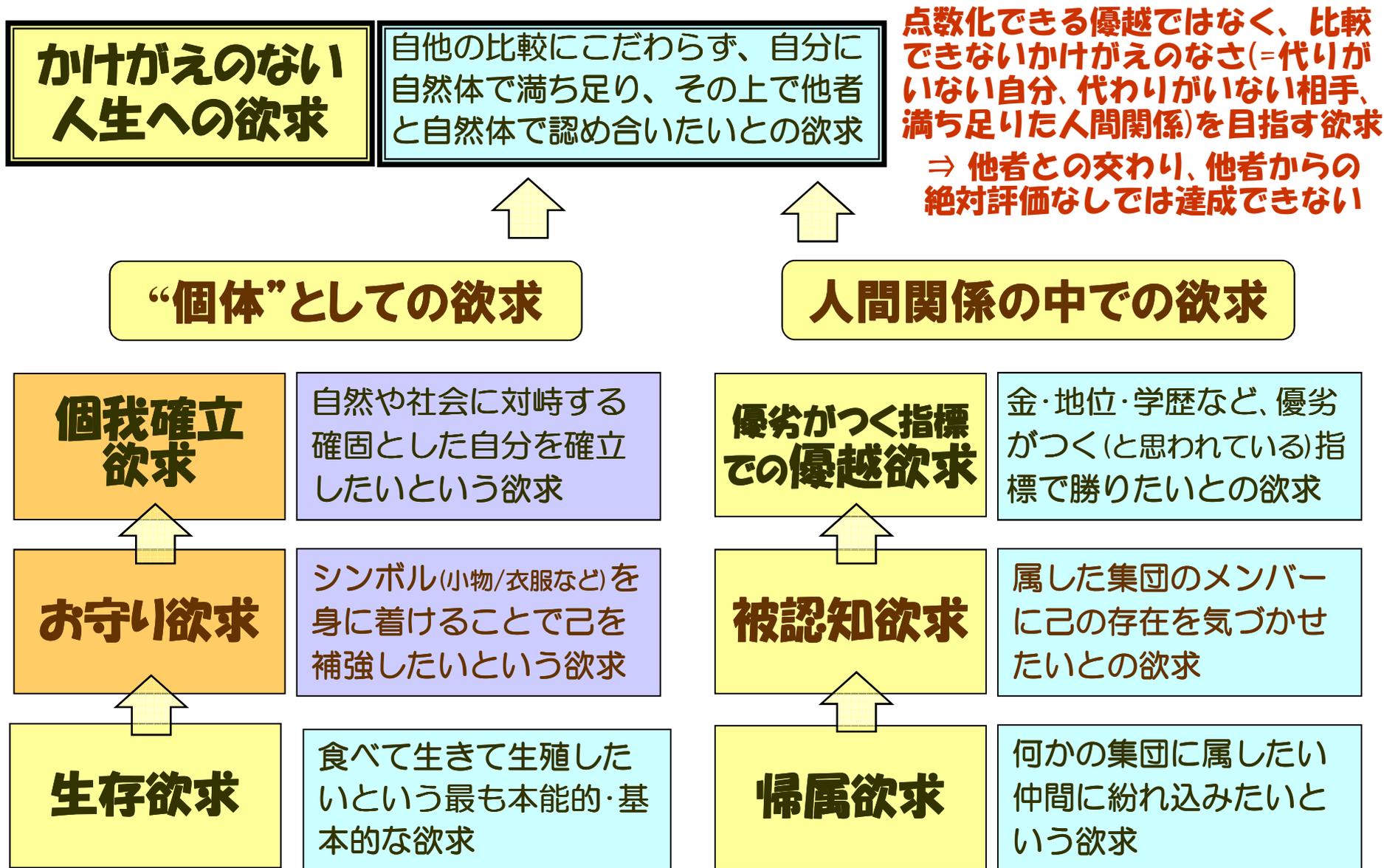
成熟バージョン：  
循環・再生が可能な範囲で  
ほどほどに稼ぎ、使う  
← 使ったものは元に戻す  
← イッワと清浄な環境を残す

手法

等価交換 / 金融投資  
自由競争 / リスクの個人化

物々交換・贈与 / 実物投資  
協働 / リスクの社会化

# 欲求 7 段階 (2 × 3 + 1) 説 (藻谷説)



# これからの価値観

19

旧：人の生は、徒党(国/企業/部族)を組んで有限な価値(燃料/食料/地位/金)を奪い合う競争であり、有利な徒党に属した人間が勝ち残る

**新：以下の3種類の指向への分化が進む**

- ① **優越追求者：比較可能な指標での”優越”をひたすら目指す** (マネーゲーマー、資格マニア、貯金道老人など)
- ② **個我確立追求者：他人と交われずネットに浸る**
- ③ **かけがえのなさ追求者：かけがえのない人たちとの人間関係の中で、かけがえない自分を生きる**  
(=己の欲するところに従いて則を超えず)

旧：人にとっての価値は、すべて貨幣に換算できる (金で買えぬものはない)

**新：貨幣と交換できない”かけがえのない人間関係”を構築することで、長い人生終盤の充足があり、生きた証が得られる** (貨幣に交換できない自分になれる)

# 日本の一線に立つ人材の現状 <sup>20</sup>

- × 難関を突破し続けた優秀な学歴エリートが日本を支えている
  - 大学入試や資格試験が測るのは、暗記力と根気  
≠「自分で問題を見つけ、答えを探る力」
  - 思考力も、本当の自信も欠く「エリート」が急増
- × 健全な精神は、健全な学力を持つ頭脳に宿る
  - 健全な精神は、健全な家族・交友関係と、無知の知に宿る。学歴エリートはこれらを欠きがち
  - マザコン、躁鬱病、内省や責任感の欠如...  
心が壊れたエリートの急増こそ、日本の大問題
- × 日本人は世界と伍していく精神力、心構えが弱すぎる
  - 欠けるのは気合ではなく、自己認識と、討論力  
= 相手を理解し相手に理解され、事実認識を共有していく能力

# お受験教育ではつかない力① <sup>21</sup>

× お受験に勝った人間は、負けた人間よりも学力で勝っている

- お受験は、意味や本質を問うことなく、自分で一から考えることもなく、出題範囲の用語や過去問の解法パターンを、教えの通りに記憶して、すぐ忘れる訓練
- その結果、学歴エリートが多くが、社会で実用になるレベルの深さに達した知識や教養を欠いている
- 学歴エリートほど、マニュアルや権威への依存心が強く、皆が言っている嘘を確認もせずにエコーする

× 学力の高い学歴エリートには、明るい人生が約束されている

- “**優越**”することが重要という強迫観念の強い親がお受験に熱中し、子供もその観念を受け継ぐ
- いくら優越しても、点数化できない、かけがえのない自分は得られず、相当の確率で心が病んでゆく

# お受験教育ではつかない力② <sup>22</sup>

× 日本人は世界と伍していく精神力、心構えが弱すぎる

→ **欠けているのは、虚勢を張って優越しようとする姿勢ではなく、異世界の人と話し共感し合う力**

= 相手を理解し相手に理解され、認識と思いを共有する能力

→ **そうした力は、裸で相手の中に飛び込んで行き、心を通じ合わせた経験からしか身に付かない**

= 文化も言葉も違う相手と、お互いにかけてがえのない関係になれたという実体験を重ねて、初めて“普通の国際人”になれる

× 本当に重要な英語力は、やっぱり、「読む力」と「単語力」

→ **日本人に欠けるのは、英語で伝える力、議論する力**

→ **問題の第一は、論理的事実を明言する能力の欠如**

= 何にでも”I think...”をつける、「何でも意見」という態度が外に通じない

→ **問題の第二は、17の母音と20の子音の使い分け**

= 日本語にない14の母音、11の子音を、区別し発音できて、初めて通じる

# 高等教育が育てるべき人材像

23

× 資格試験の受験対策を強化し、資格を持った学生を育成

→ 自分なりの生き方への矜持を持ち、新聞記事が読め、分数と絶対数の区別のつく人間を育てる

→ 実社会で目先のことしか考えていない人に囲まれても磨き減らない、強固な思考力を獲得する

× 共通テストの偏差値を上げる

→ 無知の知と、初心に帰って好奇心を持つ姿勢を叩き込み、点数に一喜一憂する人間を作らない

→ 責任意識と、人と力を合わせる力を根付かせる

× 英語教育を強化し、TOEFLやTOEICの点数を上げる

→ その前に日本語で議論し、事実認識を共有し、解決策を考え実行する訓練。次に日常会話力。

# 高校教育が育てべき人材像

24

本当の成果を出している  
人に共通に備わった「力」は何か？

テストや就職活動やスピーチといった個人戦で  
高得点を叩き出す能力は、成果とはまったく関係ない

↓  
社会・経済の現実には、皆がお手手をつないで走る徒競走。  
周りの人間を利用し、一人だけ先にゴールする人間は無用。

↓  
皆とお手手をつないで走りながら  
全員のゴールを速くできる力、  
落伍者を出さない力こそ  
一番必要な力

→ その前  
解決策を考  
共有し、  
日常会話力。